

平成 26 年度第 4 回佐世保市地域公共交通活性化協議会 議事録

場所：佐世保市役所 5 階 庁議室

時間：平成 27 年 3 月 25 日 13:30~15:30

(事務局：森)

定刻となりましたので、只今から「第 4 回佐世保市地域公共交通活性化協議会」を開会いたします。本日はお忙しい中お集まり頂きまして、有難うございます。私は、本協議会事務局で佐世保市地域政策課の森と申します。進行役を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

まずもって協議会の開催にあたり、会の成立要件の確認ですが、協議会規約第 7 条第 2 項に「構成員の過半数以上の出席により成立する」とあります。本日は、委員 19 名のうち、代理出席も含めて 17 名が出席頂いていますので、協議会の成立要件を満たしていることを御報告致します。

さて、公共交通網形成計画案の作成作業は、前回の協議会以降も引続き行っており、各交通事業者様には、お忙しい中対応を頂いているところです。改めて御協力に感謝申し上げます。

なお、本日は国土交通省総合政策局公共交通政策部企画調整官軽部様にも御出席頂くようになりましたので、御紹介致します。軽部様、本日はどうぞ宜しくお願い致します。

また、公共交通網形成計画案の策定に向けた調査事業を進めて頂いています、日本総合研究所様にも御出席頂いています。後ほど形成計画の案について御説明をお願いしたいと思います。

それでは、協議会を開催するにあたって、まず始めに、佐世保市地域公共交通活性化協議会の会長である、佐世保市の朝長市長が御挨拶申し上げます。

(朝長佐世保市長)

本日は年度末の大変お忙しい中にも関わらず、第 4 回佐世保市地域公共交通活性化協議会へ御出席を賜り、誠に有難うございます。また、日頃から市政推進にそれぞれの御立場から御理解と御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、佐世保市地域公共交通網形成計画案の作成に当たっては、日本総合研究所様の支援を得ながら、本市公共交通機関の実態調査、交通事業者様との協議を行うとともに、3 回の協議会と幹事会における協議を行って参りました。また本計画の内容に関しては、国からの御指導も頂いているところです。

本日の協議会では、去る 3 月 18 日開催の第 3 回幹事会における結果を踏まえた公共交通網形成計画案を提示し、その内容について精査を行って頂くこととなります。本日が公共交通網形成計画案の作成に向けた最後の協議会となります。本計画を実効性のあるものとして仕上げていくためには皆様の御協力が必要不可欠であります。皆様から忌憚のない御意見を頂戴し、実のある会議にしていきたいと思いますので、御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

結びとなりますが、本協議会がとりまとめる公共交通網形成計画案が、今後における本市の持続可能な公共交通網形成に貢献し、地域が活性化するまちづくりの基盤となることを期待申し上げますとともに、委員の皆様方の御健勝と御活躍を祈念して、本日の御挨拶といたします。本日

はどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(事務局：森)

有難うございました。なお、本日の協議会の議事内容は、協議会規約第 7 条に基づき、公開とさせていただきます。それでは、ここからは朝長会長に進行をお願いしたいと思います。どうぞ、よろしく申し上げます。

(朝長会長)

それでは、規定に基づき、私が議事進行をさせていただきます。お手元の会次第に沿って進めて参ります。本日の会議内容は、(1)佐世保市地域公共交通網形成計画(案)の提示及び内容精査、(2)今後の取り組みについて(3)その他、となっております。

それでは議事に入ります前に、先日行われた幹事会で出された主な意見等を、事務局から報告申し上げます。

(事務局：吉本)

※第 3 回佐世保市地域公共交通活性化幹事会(平成 27 年 3 月 18 日開催)における主な意見等について説明(省略)

(朝長会長)

ただ今の報告について、御質問・御意見はございませんか。

ないようでしたら、佐世保市地域公共交通網形成計画(案)の議論に入っていきたいと思います。なお、「佐世保市地域公共交通網形成計画(案)」は、前段と本編に分かれております。日本総合研究所様からは、先ず前段部分を御説明頂き、その前段部分に関する質疑を行います。その後、本編部分を御説明頂き、本編部分に関する質疑を行うことと致します。それでは、日本総合研究所様、宜しくお願いします。

(株)日本総合研究所：松村)

※佐世保市地域公共交通網形成計画(案)前段について説明(省略)

(朝長会長)

有難うございました。ここまでの、御不明な点や確認したい点を含めて、御意見・御質問はございませんか。

(佐世保市交通局：田崎)

形成計画(案)前段の資料 p16 に、観光圏整備計画の記載があり、観光周遊バス運行事業等が

計画されている旨表記されています。p20 に、佐世保市交通局は、定期観光バスの運行を行っている旨の表記があります。この点については、事務局に今朝連絡を入れたので、資料修正が間に合わなかったことと推察します。現時点ではこの通りですが、この形成計画が成案となる時点では、観光周遊バス運行事業は3月で終了することになりますので、表記の修正を御願います。p23 から、人とバス、鉄道、様々な形でビジュアル化して図面と整合するような形で表記して頂いていますが、製本するときは、もう少し見やすくして頂かないと折角のデータが生きていないのかなという気がしておりますので、宜しく御願います。

(朝長会長)

有難うございました。観光バスについては、表記を検討頂くとともに、見やすくという点についても御検討をお願いします。

ほかにございませんでしょうか。

ないようでしたら、日本総合研究所様から、引続き、佐世保市地域公共交通網形成計画（案）本編について、御説明を御願います。

(株)日本総合研究所：松村)

※佐世保市地域公共交通網形成計画（案）本編のうち p13 まで及び計画の目標設定について説明（省略）

(朝長会長)

ただいま御説明を頂きましたが、何か、御意見・御質問はございませんか。

(子育て支援団体ママパパ：吉田)

別紙の計画の目標設定の中の「地域が連携して企画・実現した利用促進のための取組みの数」を増やすという指標について、現状値は0件で、1年1件ずつ増やすことを目標とする旨の記載があるが、具体的には、どのような取組みを考えていらっしゃるのでしょうか。私は、娘が高校生であったり、小さな子供を持つ親御さんの代表として参っておりますので、やってほしいこと案は沢山ありますが、そういうものを具体的に拾うという点で、どのような計画を立てられているのか、教えて頂いて宜しいでしょうか。

(事務局：中西)

第2回協議会でしたかと思いますが、商店街の委員や県立大学の石川教授から、大学生がまちに出にくい、運賃料金体系が高いというのものもあるけども、もっと出やすくするような企画切符はないのかという御指摘がありました。商店街が賑わっているのは、人が寄ってくる上で今公共交通網が発達しているからこそその結果ですので、これを維持するため、同じような企画切符がないかということで、来年度は調査事業の中で実施計画を作るようになっています。例えば、先ず大

学生にアンケートをとることによってニーズを把握しながら、若い方達を街に引っ張ってくるような企画切符やイベント事でもよいですが、何かないのかというのが発端でした。具体策はまだありませんが、皆様方から頂いた意見を基に考えて参りたいと思っておりますので、来年度実施計画を作る際に、またインタビューなどをさせて頂きながら、案を拾って行かせて頂ければと思っております。

(子育て支援団体ママパパ：吉田)

是非、ここの大学の部分はもちろんのこと、高校生からも、通学で鉄道等公共交通を利用しますので、高校生のニーズも沢山あると思いますので、是非聞いて頂き、そこから声を拾って頂ければと存じますので、宜しくお願い致します。

(事務局：中西)

補足致します。これからの日本総合研究所様からの御説明に関わる部分ですが、形成計画（案）本編 p28 の中段に、「観光。商業施設等との連携」を考慮しておりまして、今委員から御指摘のあった、どういうことをしていくのかということについては、大きな捉え方ですが、その中の実施概要で書いております大学・商店街としている関係機関の記載について、少し膨らませて、いろんな意見を取入れることができるように、表現を加えさせて頂ければと思っております。

(朝長会長)

他に御意見、御質問はございませんか。

ないようでしたら、引続き日本総合研究所様から説明を続けて下さい。

(株)日本総合研究所：松村)

※佐世保市地域公共交通網形成計画（案）本編のうち p14 以降について説明（省略）

(朝長会長)

有難うございました。ここままで、御不明な点や確認したい点を含めて、御意見・御質問はございませんか。なお、幹事会における指摘事項として、実効性のある施策・検討に値する施策の立案というのがありましたので、各施策の実施主体におかれては、施策の内容について再度御確認を頂きたいと思えます。

(観光物産振興局長：森永)

P22 の下段の相浦方面の路線の見直しについて、現在の需要はわかるわけですが、平成 28 年に黒島天主堂が世界遺産として登録される場合の観光客の利用増の見込みについては、どういうふうに判断をされているのでしょうか。

(事務局：中西)

現時点での確かな見込みはありません。そこについては、観光サイドと連携や、その辺の状況を踏まえながら、来年度調査をしながら検討して参りたいと思います。

(観光物産振興局長：森永)

わかりました。そうしましたら、p28 中段の観光・商業施設等との連携の中の潜在的な需要を調査という中で、新たな需要の発掘、将来的な見込みを踏まえた中で、ここの相浦の部分については、これで行くのではなく、見込まれると、そこは見直しをするという理解でよろしいでしょうか。

(事務局：中西)

どういうアンケートをとるかについても、現時点では明確なものはないのですが、関係機関の御意見も入れながら、是非将来的な需要も盛り込みながらのいろんな判断になると思っておりますので、そこは慎重に検討したいと思っております。

(佐世保市交通局：田崎)

交通結節点の話は毎回話題に出して申し訳ありませんが、形成計画（案）前段 p40 交通モード間の連携の現状について、データ数が少ないとの御説明がありましたが、p41 で、現状としても、佐世保駅前、江迎バスセンター、佐々バスセンターのデータが一定ある一方、早岐駅前については、データ数は1という、まあ、それだけの機能がないからこれだけの数字しか出てこないというのは理解します。そういう中で、形成計画（案）本編 p19 ネットワークの形成として交通結節点の整備・形成と表記されています。前回協議会でお尋ねした時には、都市整備部門と調整した上で書込みますとのお答えであったと記憶をしております。そういう中で、例えば、「早岐駅前東口ロータリーを活用して」というふうな書込みがあります。早岐駅東口では、既にロータリーが整備されて、駐車場施設も既に整備が整ってしまっています。そういう中で、あのロータリーで、乗継拠点として、大型バスを現状のままでは貼付けることは難しい。種地としてあるのか、なければ莫大な経費をかけて購入、実施時期については長期ということで、10年スパンということでそういうこともありはする、10年後の話ですからという話になっているのかもしれませんが。それと、先ほど冒頭会長からもあったように、幹事会においての意見でも、実効性のあるもの、検討に値するものに限定することという触込みの中で、あえてまたこのことを書込んである。しからば、実現性これありという前提の下でここには書き込みがあると理解するわけですけども、ここの東口ロータリーを利活用する途があるのか。それと、もう一つは、今の交通網の動きとして、国道からのタッチは、裏口はそんな本数はないのですよね。人口集積という点では、東口、花高方面の住宅地ということもありますけれども、今の交通状況からして、西口の国道筋が陸上交通の要の部分ですよね。そうした時、どうなのかな、今旧駅舎が解体されて、後の利用形態がどうなるのか承知してありませんが、その利用可能性、それと、ただスペース的に結節点を

持つだけのスペースがとれるのか少ししんどいなという気もしておりますが。ということで、前段の質問を受けて、都市整備部門と協議をされてこの書込みということの模様ですから、検討経過、将来の見通しについて、教えて頂きたい。

(事務局：中西)

前回協議会の前に開催しました幹事会でも、都市整備部門から出席頂き、この話も再度見直しをしたところです。その中で出てきましたのが、確かに、現時点では西口が中心で、西口についても再開発の話が既に出て来ているとの情報も頂きました。その情報も共有しながらではありませんが、東口についても利活用を今後進めなければいけないとの意識も御伺いしました。西口という視点もあります、その書込みは残したままで、今後都市整備部も入って、実施主体の中で都市整備部署として表記しているところで、そういった中で、長期にはなりますが、この形成計画自体は5年間で、最後の実施時期の表を御覧頂きますと、長期・・・というところで、最初のところは企画検討というようなところでもありますけれども、交通結節点の整備・形成については、次年度の再編実施計画の中で、交通局長が仰っていた、具体性を持たせるとしたときの書込みについて、計画のやり方とか、どういうことを盛り込んでいくかということについて、再度ここで協議をしたいと思っておりますが、この大きな考え方としては是非残して将来に繋げたいと考えております。

(都市整備部長：田中)

早岐駅の西口側の整備については、当然今の西口の駅前広場は、駅舎がなくなって、スペースができましたが、あれをどのように、都市機能上ロータリーにしていくかということは、今からJRにも話をし、地元にも、当然交通事業者の当たりにも話をしながら、絵を描いていくのですが、瀬戸側のまちづくりというのは、長期にかかります。今から早岐瀬戸の早岐側の工事も入って参りますので、ですから、そういった意味で長期という表現になっていると思います。

ただ、自身で今思っておりますのは、東口と西口で人口形態が7対3で、東口側から自由通路がありますので、西口にわざわざ回らなくても、東口のロータリーでバスが停留すれば、西口に自由通路で行けるわけです。ですから、都市機能がああいうふうに変った中で、逆に、交通事業者として、当然西肥バスさんを含めて、あそこをどのように利用されていくのか、需要がないのかということについて、お考えを御伺いしたいと存じます。今後協議して参りますが、ああいった機能ができましたので、当然利用者の利便性を考えると、東口に入って頂ければ、自由通路で抜けていけますので、何故バス事業者として動きがないか、そういった整備を担当した部門としては、疑問に思っております。何か交通事業者の御都合があれば、そういった御話も聞かせて頂ければと思います。

(西肥自動車：川口)

バス停を、中のロータリーには入れませんが、市からの要請もありましたので、つくるとい

ことで十分と思います。あと、西口の方が、路線バスで利用される方が多いわけです。御質問に対しては、現状ではそういうお答えになります。

(佐世保市交通局：田崎)

あそこは、道路幅が、小森橋から花高の交差点になっているところ、あそこまでは、一定幅あり回って行けばよいのか、ただ、路線的に、国道路線と、裏手の花高路線、まあ、市バスは1本下の原方面しか持たないのですが。

(都市整備部長：田中)

あそこは、ロータリーの中にバス停ができるのですか。道路側ですか。

(西肥自動車：川口)

中にはできません。道路側です。東口は、花高にしか行きませんので、花高に行く方にとっては良いですけど、佐世保にお見えになるには、遠回りになりますので、昔から西口でしょう。あそこに作っていらっしゃるけれども、タクシー利用も少ないと聞いています。バス停は作るようになっています。

(企画部長：中島)

幹事会会長をしておりましたので、幹事会での議論について補足致します。形成計画(案)本編p19に書いておきますとおり、早岐駅につきましては、今東口から行って、自由通路を含めて、また、今後早岐駅については、まちづくりの様々な計画があります。その動向に応じて当然交通の考えも随時変わってくるものと考えております。そのことについて確認をする中で、いわゆるまちづくり計画を随時抽出しながら、早岐という非常に重要な結節点でもありますので、最終形を見据えながら長期的に考えていく視点で書込みしております。早岐駅そのものについての書込みがないと、やはり全体としてのネットワークという考え方の中では、非常に重要なポイントでもありますので、現状でどうかということではなく、少し長い視点の中で、まちづくりの視点に必ずこの交通という視点を加えながら、まちづくりを進めていく、情報共有をしていくという意味で、この書込みをしている状況です。これについては、都市整備サイドも各交通機関の皆様についても御同意を頂きながら、この書込みに最終的にさせて頂いたということで御提案差上げております。

(西肥自動車：川口)

将来のまちづくりにおいては、利便性が向上できるとなれば、いろいろ見直しが出てくるのではないかと思いますけれども、将来のことがまだわかっておりませんので。

(企画部長：中島)

委員御指摘のとおり、まちづくりの視点の中で、交通という視点も入れながら、どういう形の中が最善なのかということ、少し広域的な視点も含めて、考えて参りたいというものです。

(西肥自動車：川口)

そういう意味で掲げてあって良いのではいでしょうか。交通局長さんも。

(佐世保市交通局：田崎)

はい、結構です。

(子育て支援団体ママパパ：吉田)

「子育てにやさしい」という表現が、子育て世代に対しての文言が、あまりこの形成計画案には見当たりません。佐世保市は、子育てに優しいまちづくりということを掲げていらっしゃると思いますので、何故子育てという言葉が軽視されるのか、とても悲しく思います。そのことに御配慮御願ひ致します。

(事務局：中西)

確かに、「子育てにやさしい」とか、子供に優しいとか、そういう個別具体的な文言はありませんが、形成計画(案)本編 p6 のキャッチフレーズで掲げています、市民に親しまれという言葉で、そういういろんな視点が入っている中で、地域と連携しながらという大きなところがあります。そういった「子育てにやさしい」という言葉が確かにありませんが、その辺は少し考えさせて頂いて、交通弱者と呼ばれる皆様に関する課題を見つめ直して、少し文言の整理をして参りたいと思います。

(朝長会長)

ほかにございませんでしょうか。

よろしいですか。

ほかにないようでしたら、私から1点申し上げます。先ほどの相浦というのもありましたが、先般の県立大学経営協議会で出た話題で、西九州自動車道を使ったバスが何故走らないのかという御話がありました。または、西九州自動車道を使った速達性のあるバスをつくと利便性が非常に高まるのではないかという御話もありました。そういう路線の検討、これは、東の方のハウステンボス、国際大学にも言えるのかもしれませんが、そういう検討は、この場であるのか、しないのか、そういう要望が挙がっておりましたので、その点も、大学との関係という中で検討されればよいのではないのでしょうか。

(事務局：中西)

今の会長の御意見について、需要を喚起するという中で、形成計画案本編 p28 中段で、潜在的

な需要を調査した上で、という中で、是非そういった視点も踏まえながら、今後の利用策についての調査に入れて参りたいと思っています。

(長崎県立大学：石川)

先ほど、市長様から西九州自動車道を使った高速バスと申しますか、生活核とか地域核の間をより素早く移動させるにはそうしたものが必要かと思っております。同じようなことは、私も前回協議会で申したと思いますが、佐世保の都市域には、いろんな交通モードがありますが、ただ、それぞれ1つ1つのモードの役割が少し曖昧なところがあるかと思ったりします。例えば、松浦鉄道とバスとの関係では、本来は鉄道が高速大量輸送であるべきところ、松浦鉄道の場合は路線の歴史があって、逆に松浦鉄道を利用の方が時間がかかったりということもあります。交通モードの役割をもっと明確にしていって、更に鉄道に代わる、より高速性のあるものが必要であれば、先ほどのような、高速道路を使った新しい交通モードのようなものも考えて頂きたいと思えます。西肥バスと市バスにしても、競合路線を街の中心部の過密化ということでどうするかという議論がなされていますが、西肥バスはどちらかと言うと長距離で、市バスが短距離というイメージがありますが、例えば、競合している所では、西肥バスの長距離では、半急とか、かつては特急があったと思いますが、停車駅を少なくして速達性を重視するか、きめ細かさを重視するか、のようなものを導入して、競合路線の役割分担の方法もあるかと思えます。また、一つ大事なのは、乗換がなかなかないのは、基本料金にあると思えますが、いろんな交通モードを使っても安いコストで済むようにすれば変わると思われますが、折角いろんな交通事業者が集まっていられるので、更に検討して頂きたいと思えます。

(事務局：中西)

乗換促進については、形成計画案本編 p24 上段の共通定期券・事業者間の乗継割引の導入検討との中で、最後に言われた点が該当すると思っております。同じ事業間は別として、異なる事業者間の割引はスマートカードでも現在全くありませんので、ここの乗継割引の所で、来年度少し詳細に検討したいと思えます。

(九州運輸局：福田)

形成計画案本編 p26 において、バスロケーションシステム等の導入可能性の検討は実施時期が中～長期と記載されている一方、低床車両の導入促進は短～中期と記載されていますが、低床バスの導入は費用がかかりそうですが、このような実施時期の記載になっている理由を改めて教えて下さい。

(事務局：中西)

低床車両の導入促進は現在もできる範囲から着実に両社で導入を続けて頂いています。また、バスの乗り降りしやすい環境の整備につきましても、何かありましたら逐次実施主体の方とも連

携をして、少しずつでも実施されていると思います。一方、バスロケーションシステムは、残念ながら現在まだ検討という段階でもありませんので、その辺も踏まえて、中から長期ということで、少し後にずれこんだような形になっておりますが、まずはバス路線の再編の考え方に沿って、バスの台数がどうなっていくのか、どのくらいの路線数になるのかとかを、少し整理してから、中期以降から取組ができればということで理解して頂ければと存じます。資金がかかるということももちろんあります。

(朝長会長)

よろしいですか。ほかにございませんか。

ほかにないようでしたら、来年度には地域公共交通再編実施計画を策定する予定になっておりますが、日本総研様から御説明がありましたとおり、交通網形成計画に掲げている事業の中には実施計画の策定を待たず、来年度中に着手するものもございますので、各実施主体におかれましては事業に着手していただきますようお願いいたします。

続きまして、今後の取組みについて、事務局お願いします。

(事務局：吉本)

※今後の取り組みスケジュール（平成 26 年度～28 年度の案）、平成 27 年度における協会の役割及び施策推進体制並びに平成 27 年度地域公共交通再編調査事業に係る契約について説明（省略）

(朝長会長)

只今の取組みと委託の件につきまして、何か御質問・御意見はありませんか。

(事務局：中西)

再編実施計画に係る国からの調査費補助を使わせて頂くということで手前勝手に申しておりますが、まだこれは全く確定をしているわけではありませんで、希望として申しておりますが、是非とも、申請をさせて頂いて、補助の決定を頂ければ、このようなスケジュールになるということを申し添えます。

(朝長会長)

とうことで、皆様御理解して頂けますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、御了承頂いたということで、有難うございました。

ほかにないようでしたら、「その他」とありますが、事務局から来年度の委員編成等について説明があるとのことですので、事務局お願いします。

(事務局：吉本)

来年度の協議会委員には、基本的に、現在の方に継続を御願いたいと思っておりますが、特にバス事業者さんの中でさせばバスについても非常に関係が出て参りますので、させばバスの方と、あと交通事業者の労働組合の代表の方にも委員に加わって頂きたいと事務局では考えております。また、形成計画案については、本日の御意見を反映させて修正を行いますが、国からも助言を頂くことになっており、その内容は本日この場では御紹介できませんが、国の助言を頂き、それを踏まえた修正をすることについて事務局に御一任して頂きたいと存じますので、その旨も御了解頂きたいと思っております。

(朝長会長)

今の事務局からの説明に対して、何か御質問・御意見はありませんか。

(西肥自動車：川口)

労働組合代表とは、どこのことでしょうか。

(事務局：吉本)

個別の会社の労組代表ではなく、県の交通組合があると御伺いしておりますので、その当たりの代表の方に入って頂きたいと思っております。

(朝長会長)

それで、よろしゅうございますか。

はい、それでは、事務局の方でそれは調整をして頂ければと思います。

ほかに、本日の協議会全体を通じて何か、御意見等ございませんでしょうか。

ないようでしたら、国土交通本省の軽部企画調整官様、如何でしょうか。

(国土交通省：軽部)

本日は、突然参加させて頂き、有難うございました。

地域における形成計画の策定につきましては、本省と九州運輸局で助言しておりますが、これから計画を作って、具体的に実行していくという段階に来年度から入って行かれると思いますが、私共としても、支援策として、形成計画及び今後検討される再編実施計画について作成した場合に、補助要件等につきましても重点的に支援できる方法についてもやらせて頂いているところですので、是非そういった点も御活用頂きながら、地域でいろんな取組を進めて頂ければと考えておりますので、今後とも宜しくお願い致します。

本日は、参加させて頂き、この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

(朝長会長)

心強い御言葉を頂き、有難うございました。ないようでしたら、みなさまの御協力のおかげで議

事を終えることができました。本日の協議会の結果を踏まえて、公共交通網形成計画の案を取りまとめ、今後は先程のスケジュールにもありましたとおり、佐世保市の計画として策定を行うための手続きを進めることとなります。

また委員の皆様には大変お忙しい中、今年度は4回の協議会への御出席を賜り様々な御意見を頂戴しましたことに対して、改めて御礼を申し上げますとともに、引き続き来年度も、御協力賜りますことをお願い申し上げます。それでは、私から事務局へお返しいたします

(事務局：森)

皆様お疲れ様でした。これをもちまして第4回佐世保市地域公共交通活性化協議会を終了させて頂きます。